

京都市動物園 110 周年フィナーレ 京都市・京都大学連携 6 周年記念事業
「野生動物学のすすめ」実施報告

京都市では、京都大学と「野生動物の保全に関する教育・研究を行う連携協定」を平成 20 年 4 月に締結し、京都市動物園と京都大学野生動物研究センター（WRC）と協働で、野生動物の保全と共生に向けた様々な研究や取組を行っています。

この度、協定締結から 6 周年を記念して、「調査・研究の場」としての京都市動物園の取組を広く紹介するため、「野生動物学のすすめ」をテーマにイベントを開催しますとともに、開園 110 周年記念事業を締めくくるイベントとして、「110 年の歩み～みんなの京都市動物園～」パネル展を実施します。

（事業全体に関する所感）

事業内容は、ほぼ昨年と同じになった。昨年度終了時点では新ゴリラ舎のオープンとあわせた開催を検討していたが、110 周年のフィナーレとして位置づけたため、この時期の開催となった。今回の開催時期は検討が必要である。

体験型実習については、小人数のためいつでもコールでの応募受け付けは行わず、動物園でのメール及びファックスによる応募受付を実施したが、混乱なく出来た。また、昨年は参加者が少なかったコンポスト実習が一番人気になっているが、HP、FB、ポスター、京都新聞などの広報もタイミング良く出来たからではないかと考えている。

NPO ブースは、8 団体と多くの参加が得られたのは良かったが、個々のブース展開だけであったので、トークセッションなどが出来ればより良かったのではないかと感じた。しかし、ブースの設営などでは、京都市立岡崎中学校にテントや机を借りて準備できた状況であり、この点については改善が必要と感じた。なお、快く機材をお貸しいただいた京都市立岡崎中学校には、この場を借りてあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

来年は、サイエンスカフェのような企画を検討したい。

当日のプログラムは以下の通り。以降、個別のイベントの報告を載せた。

日時 2014.04.05-14.04.06

主催：京都市動物園、京都大学野生動物研究センター

参加費：無料（別途、入園料が必要。）

イベント内容

● 体験型学習

(1) コンポストを活用した野菜作りに挑戦しよう

日時：平成 26 年 4 月 5 日（土）午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分まで

対象：小学生以上

場所：東エントランス多目的会議室、ゾウ舎、調理場、コンポスト、おとぎの国屋上

募集人数：10 人

申込方法（先着順）

ア 応募方法 メール（ikimonomanabi@city.kyoto.jp）及びファックス（075-752-1974）

イ 必要事項 催し名、参加者の住所、氏名、学年又は年齢、電話番号

ウ 募集期間 平成 26 年 3 月 1 日（土）～3 月 25 日（火）

※小雨決行，雨天中止

※期間前に定員となり募集終了。

参加者：14名

対応者：和田，門，山下，松岡，水野

購入品：培養土 25Lx4，ミニトマト苗 28ポット

プログラムの流れ

- (1) 実習の概要説明（東エントランス多目的会議室）
- (2) ゾウ舎裏二次発酵肥料の説明及びゾウの糞の運搬
- (3) コンポスト製造機（一次発酵用）の説明，ゾウの糞の計量，糞の投入
- (4) 調理場の説明
- (5) プランターへのミニトマトの定植（おとぎの国屋上）
- (6) 受け付けたミニトマトの苗と記念撮影。
- (7) ゾウにお礼のおやつ（カンパン）をプレゼント。

所感：応募開始から早い段階で定員を超える応募があった。応募方法はメール7件，ファックス3件あり，手軽さが良かったのではないと思われる。

また，京都新聞にタイミング良く掲載されたことも周知につながったと考えられる。

参加者は，小学生から大人までであったが，年代に限らず楽しんでいただいていた。

小学生にはゾウ舎からコンポストまで，ゾウの糞を一輪車で運んでもらったが，とても新鮮な体験になったようだ。今後は，苗の生育状況などをホームページやフェイスブックでお知らせしていく予定だが，参加者の中からは収穫イベントはないの？との問い合わせもあり，今後の検討課題としたい。

なお，体験型実習としては，良いプログラムになると考えるが，その後の水やり等の日々の管理をどのようにしていくかが，プログラムを継続して実施するための課題となる。

（和田晴太郎）

実施の様子

○東エントランス多目的会議室で挨拶と実習の流れを説明



○今回の実習は，ウンチ⇒肥料⇒飼料作物⇒餌⇒ウンチという循環をテーマにした環境実習であり，その他に環境に優しい取組について説明（太陽光パネル，太陽熱利用，小水力発電，風力の利用，雨水の利用など）



○ゾウ舎に行き、生ウンチと二次醗酵をしている肥料の観察



○一輪車でゾウの生ウンチを肥料を作る機械の場所まで運搬します。小学生にとっては、この一輪車の使い方も難しいようでした。



○肥料を作る機械の説明と工程を説明し、実際に内部を観察してもらいました。実際に温度や匂いを体験しました。



○ウチは重さを量ったあと、投入します。小学生にはちょっと荷が重いので。



○調理場では、動物の餌について説明しました。



○いよいよ、場所をおとぎの国屋上に移して、メインプログラムの開始です。



○まずは土とソウ糞の肥料を混ぜあわせ、バケツでプランターまで運びます。



○プランターの準備が出来たら、お気に入りのミニトマトの苗を選びます。



○選んだ苗をプランターに受け付け、水を与えます。



○プランターへの植え付けが終わった後は、芝生の雑草取りもお手伝いいただきました。



○そして、きれいになったところで記念撮影しました。



○最後は、ゾウさんにおやつをプレゼントして、プログラムを終了としました。



ご参加いただいた皆様ありがとうございました。今後のミニトマトの生育と収穫を楽しみにして、また動物園に来て下さい。

(2) フクロウのペリット（未消化物を吐いたもの）を解体してみよう！

日時：平成26年4月5日（土）午後1時30分～午後2時30分まで

対象：小学生又は中学生

場所：東エントランス多目的会議室

定員：10名

※申込方法（先着順）

ア 応募方法 メール (ikimonomanabi@city.kyoto.jp) 及びファックス (075-752-1974)

イ 必要事項 催し名, 参加者の住所, 氏名, 学年又は年齢, 電話番号

ウ 募集期間 平成 26 年 3 月 1 日 (土) ~ 3 月 25 日 (火)

※小雨決行, 雨天中止

参加者: 11 名

対応者: 和田

プログラムの流れ

- (1) ペリットの解説
- (2) ペリットを参加者に配布し, 解体開始。
- (3) 解体して選り分けた骨の同定のための資料配布。
- (4) フクロウについての解説。

所感: このプログラムは, すでに何度か実践してきているため, 問題なく実施出来た。加えて, その実践の中で得られた課題 (鳥の糞についての説明やアカショウビンのペリットの活用) を改善して実践できた。今後, 実践を積む中で, 時間配分や解説内容などをさらに改善して, より良いプログラムにしていきたい。

実施の様子

○黙々とペリットから骨を取り出す参加者



(3) 動物の声を聞いて・見て・みよう

日時: 平成 26 年 4 月 6 日 (日)

一部 午前 9 時 30 分 ~ 午前 10 時 20 分まで

二部 午前 10 時 45 分 ~ 午前 11 時 35 分まで

対象: 小学生以上

場所: 東エントランス多目的会議室

定員: 一部, 二部とも各 10 名 (事前申込要)

講師: 杉浦秀樹 (京都大学野生動物研究センター准教授)

※申込方法 (先着順)

ア 応募方法 メール (ikimonomanabi@city.kyoto.jp) 及びファックス (075-752-1974)

イ 必要事項 催し名、参加者の住所、氏名、学年又は年齢、電話番号

ウ 募集期間 平成 26 年 3 月 1 日（土）～3 月 25 日（火）

※小雨決行，雨天中止

参加者：一部 7 名（応募 9 名），二部 8 名

対応者：和田

プログラムの流れ

- (1) 講師紹介
- (2) 声の性質，ソナグラフの見方の説明
- (3) 園内で録音
- (4) 録音した音をソナグラフに通して解説
- (5) 質疑応答

所感：昨年と同様のプログラム構成で実施。動物が相手であり，思い通り声が聞ける訳ではないが，シロテテナガザルは動物舎前で説明を始めると鳴き始めてくれるので非常にやりやすかった。

なお，一部と二部で若干動物を変えており，一部では熱帯動物館のカメやヘビの音に関する説明を行い，二部ではミニブタの鳴き声をサンプリングした。

動物園の楽しみ方の一つに音があり，鳴声は有効なアイテムとなる。今後，さらなる活用を検討したい。

実施の様子



○参加者の音声の分析を行う。



○左から「あ・い・う・え・お」の解析パターン

(4) ICTを使って動物にせまる

～GPSやセンサーを使って動物の生活や行動を解析しよう！～

日時：平成 25 年 4 月 6 日（日）午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分まで

対象：中学生以上

場所：東エントランス多目的会議室

定員：10 名

講師：吉田信明（京都高度技術研究所 主任研究員）

※申込方法（先着順）

ア 応募方法 メール（ikimonomanabi@city.kyoto.jp）及びファックス（075-752-1974）

イ 必要事項 催し名, 参加者の住所, 氏名, 学年又は年齢, 電話番号

ウ 募集期間 平成 26 年 3 月 1 日 (土) ~ 3 月 25 日 (火)

※小雨決行, 雨天中止

参加者: 4 名

対応者: 和田

プログラムの流れ

- (1) 講師紹介
- (2) ICT の活用方法及びタブレット PC の使い方説明
- (3) 園内の機器類の設置状況の説明
- (4) これまでに収集したデータの解析について
- (5) 質疑応答

所感: 今年, 初めて取組む実習課題である。まだ, 十分なデータ採取と解析が出来ていない段階であり, さらに完成度を高める必要がある。そのためにも実践を重ねていきたい。

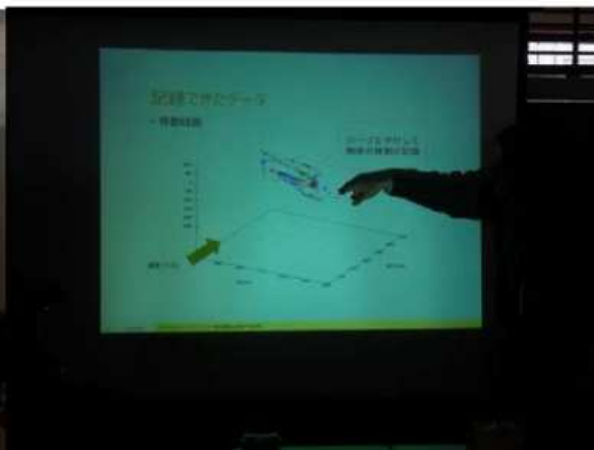
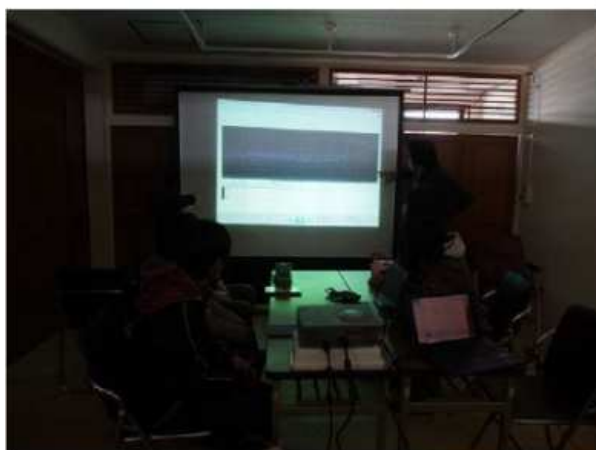
○タブレットの使用法説明

○園内の機器類の説明



○温室度センターによるデータ解析

○Kinect によるナマケモノ行動軌跡の解析



● NPO ブース

時間: 午前 10 時 ~ 午後 3 時まで

場所: 動物園大水禽舎北・東側広場, アフリカの草原芝生広場

内容：動物の保全等に取り組むNPOの活動内容を紹介。

出展：ボルネオ保全トラスト、どうぶつたちの病院、ツシマヤマネコを守る会、マハレ、
サンクチュアリ・プロジェクト、市民ZOOネットワーク、ポポフ、JGI-J

対応者：坂本

実施の様子



● 研究発表揭示

時間：午前9時～午後5時まで

場所：各動物舎

内容：京都市動物園が平成25年度に実施した研究内容及び繁殖の取組みを紹介。

アフリカの草原

- ・「アフリカの草原」オープンに伴う大型草食獣の園内移動 濱崎
- ・新フラミンゴ舎における展示の工夫 松浦
- ・放飼場の拡大とシマウマとの同居がキリンの行動にもたらす影響 田中
- ・キリンの健康管理としての体重測定10年間の記録と発達の指標 高木

類人猿舎

- ・人工哺育で育てたニシゴリラを両親の元に戻しました 長尾
- ・京都市動物園のチンパンジー群における母子に対する社会行動調査 田中

サル舎

- ・マンドリルの顔は本当に目立つのか？ 田中

ひかり・みず・みどりの熱帯動物館

- ・熱帯動物館の施設紹介 米田
- ・熱帯動物館における両生・爬虫類のイメージ調査及び新施設に対するアンケート結果の報告 岩橋

ゾウ舎

- ・新ゾウ舎に向けての新人教育2（ゾウとの接し方について） 米田

ペンギン舎

- ・データロガーを用いたフンボルトペンギンの転卵行動モニタリング 佐々木

東エントランス

- ・動物園における研究と教育の可能性

—京都市動物園 生き物・学び・研究センターの活動紹介— 田中

対応者：伊藤，塩田





- フィールドワーカーのライフスタイル

時間：午前 10 時～午後 3 時まで

場所：アフリカの草原芝生広場

内容：野外調査を行う研究者の装備及び現地の様子を紹介。

協力：座馬耕一郎（京都大学野生動物研究センター）

対応者：坂本

実施の様子



●110年野歩み～みんなの京都市動物園～

日時：午前9時～午後8時

場所：東エントランスイーストギャラリー

内容：動物園の時代背景を写真で振り返る。

対応者：和田，山下，平山

実施の様子



●ワークショップ

日時：午前10時～午後3時まで

場所：東エントランスイーストギャラリー

内容：羊毛を使った「まきぐるみ」，「アニマルぐるみ」の製作ワークショップ。

協力：岡村編物教室

対応者：和田





●ゴリラカフェ

日時：朝9時～午後8時

場所：東エントランスショップ キッチン&バー、アフリカの草原仮設ショップ

内容：ゴリラ丼(アフリカの家庭料理「ティガデゲナ」という野菜の煮込み料理をご飯に絡めたもの)
バナナムース(バナナムースを使ったスイーツ)

協力：キッズプロモーション



【入園者数】

	天候	有料	無料	総計
4/5 (土)	晴時々雨	2400	2796	5196
4/6 (日)	曇時々雨	2042	2337	4379